

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	チェンマイ県6郡の30-60歳の女性が、子宮頸がん・乳がんに対する知識を向上させ、定期的な検診を実施することにより早期発見・適切治療を促すことで、両がんによる死亡率を低下させる。
(2) 事業内容	<p>当事業では、3年間で6郡の対象地域での活動を計画しているが、以下は第3期中間報告として、2012年11月15日から2013年3月31日までに2郡で実施した活動について記載する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療機器・備品の調達（第3期活動終了） 6種類の医療機器・備品を2郡の34病院と移動検診車へ整備。</li> <li>2. 事業オープニングセレモニー（第3期活動終了） 11月26日ハンドン郡にて、11月27日サンパトン郡にて開催。</li> <li>3. 教育教材の作成（第3期活動終了） パンフレット、記録張、ポスターを作成し、対象者・対象病院に配布。</li> <li>4. 看護師の研修（第3期活動終了） 1月10日、11日に看護師の研修実施。（1日目は講義中心、2日目は実技中心）</li> <li>5. 村のヘルスボランティアの研修（第3期活動終了） 1月21、22、23、24、25日にはハンドン郡にて436名、1月15、16、17、18日にはサンサイ郡にて480名の村のヘルスボランティアに対し研修を実施。</li> <li>6. 子宮頸がん・乳がん検診キャンペーン（活動継続中） ハンドン郡にて計28回、サンパトン郡にて計52回の検診キャンペーンを実施。（両郡にて年間99回実施予定）</li> <li>7. 「がん予防と食事」に関するワークショップ（第3期活動終了） 村のヘルスボランティアデーに合わせ3月20日ハンドン・サンパトン両郡にて開催。</li> <li>8. 選ばれた村のヘルスボランティアの特別研修（第3期活動終了） 2月14日ハンドン郡にて、2月15日サンパトン郡にて村のヘルスボランティアの中から選抜されたボランティアを対象に特別研修実施。</li> <li>9. モニタリングのための病院訪問（活動継続中）</li> </ol>

	<p>12月27日、ナコンピン病院の医師との会議のため病院を訪問。</p>
<p>(3) 達成された効果</p>	<p>同じく第3期の中間報告として、2012年11月15日から2013年3月31日までに2郡で達成された効果について記載する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハンドン郡から28名、サンパトン郡から38名の看護師が研修に参加し、子宮頸がん・乳がんに関する知識と検診技術を向上させた。研修前後の理解度テストを比較すると、ハンドン郡では75.69%から83.45%に、サンパトン郡では80.30%から85.16%に上がった。</li> <li>2. ハンドン郡から計436名、サンサイ郡から計480名の村のヘルスポランティアが研修に参加し、住民たちに伝えられるように子宮頸がん・乳がんの知識を習得した。研修前後の理解度テストを比較すると、ハンドン郡では69%から85%に、サンパトン郡では66%から84%に上がった。</li> <li>3. ハンドン郡では対象年齢の女性の20.80%に当たる3,903名が、サンサイ郡では26.34%に当たる5,520名が検診キャンペーン等にて子宮頸がん検診を受診した。</li> <li>4. ハンドン郡では対象年齢の女性の28.81%に当たる4,102名が、サンパトン郡では40.58%に当たる8,503名が検診キャンペーン等にて乳がん自己触診法を学んだ。(村のヘルスポランティアが村の集会や個別の自宅訪問の際に直接教えたケースも含む。)</li> <li>5. 子宮頸がん検診によりハンドン郡で4名、サンパトン郡で14名の女性に、また乳がん自己触診によりハンドン郡で8名、サンパトン郡で30名に異常が見つかった。今後、精密検査や治療などが適切に受けられるようにフォローしていく。</li> </ol>
<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>今後、研修を受けた村のヘルスポランティアが住民に検診キャンペーンの参加を促した効果が表れ、キャンペーンへの参加人数が増加すると思われる。検診キャンペーンでは、研修を受けた看護師が適切な医療機器・備品を使い検診を実施し、子宮頸がん・乳がんの早期発見を促す。事業が完了するまでに、ハンドン郡とサンパトン郡で、それぞれ対象年齢の女性の50%に当たる19,876名が子宮頸がん検診を受診することが見込まれる。その他、キャンペーン以外でも村のヘルスポランティアが乳がん自己触診法を女性住民に個別に伝えることも含め、それぞれ対象年齢の女性の70%に当たる27,827名が乳がん自己触診法を学ぶことが予想される。検</p>

	<p>診で異常が見つかった女性が、精密検査や治療を受けられるようにフォローしていく。5月の中間会議には今までの成果と改善点について話し合い、それを反映させる形で後半の事業を実施する。10月の年次会議では3年間にわたる事業全体の評価を行う。</p>
--	---